

Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
東部教育局
〒680-0846鳥取市扇町21番地
東教発 H24. 1. 10 No.110
<http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

「協働の意欲」と「互いのコミュニケーション」をキーワードに

新年おめでとうございます。

局長 久岡 賀代子

皆様には大きな夢と新たな決意を胸に、よき年をお迎えになられたことと心からお慶び申し上げます。昨年は3月11日の未曾有の東日本大震災、大雨被害等国内外で甚大な被害をもたらす自然災害が次々と起こりました。そのような大変な状況の中で、家族や友人、身近でかけがえのない人の大切さを感じたり、FIFA女子ワールドカップに優勝したなでしこジャパンの『諦めなければ願いは叶う』という元気な姿に勇気もらったりして、改めて人の絆の大切さを感じた年でもありました。

つながりという意味では、学校と地域との連携の重要性も再認識されました。学校は地域に支えられ、地域に育てられています。地域の方々が関わってくださることは、学校教育の大きな力となるだけでなく、生涯学習の充実や生き生きとした地域づくりにもつながります。家族や地域の絆を大事にしながら、校区内にある公民館等の取組やその願いを理解し、双方向に連携していくことで、学校が「地域のセンター」として活躍していくことも可能になってきます。本年のさらなる発展が楽しみです。

今、日本は、政治・経済・教育と大きな改革に向けて動いています。この潮流の中で、子どもたちの内面に「新たな価値」を育てている私たち教職員は、本当に必要なことや大切なことは何なのか見定めていくために意識変革も必要です。『やらなければ何も生まれぬ。実行なき戦略は無に等しい』などと企業では言われていますが、教育界も同じです。今を生き未来を担う子どもたちが、夢を育み、高い志を持った逞しい人となるよう各学校で全教職員がビジョンを共有し、「協働の意欲」と「互いのコミュニケーション」を合い言葉に、実践していくことが大切です。そうすることで教職員の意識も高まり、今求められる学校としての役割を果たし、信頼される学校となることと思います。

結びにあたり、今年が皆様方にとりまして今まで以上に充実・発展した年になりますよう心から祈念し、新年の挨拶といたします。



毎時間が真剣勝負！

鳥取市立佐治小学校

佐治小学校では、児童の学習の実態や教師自らの授業を振り返りながら、「確かな学びのある授業」をめざして授業改善に取り組んでいます。積極的に授業を公開し、お互いに授業力を高め合っています。



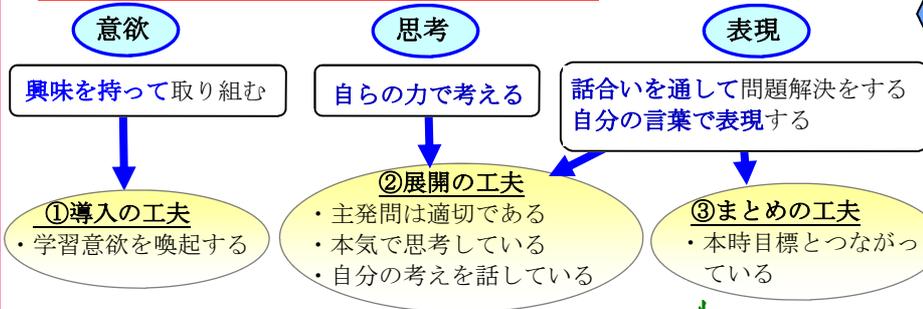
6年生の授業の様子より



まず教師の意識の改革をしました

- ・習得型の学習に偏りがちなので、意欲・思考・表現の学習過程を大切にしよう。
- ・子ども主体の授業をめざすために、教師中心の学習を見直そう。
- ・子どもたちの発表を増やすために、教師が話しすぎないようにしよう。

「確かな学びのある授業」をめざしています



授業実践を通し 自らの授業力を鍛える

- ・研究教科は全教科全領域 (苦手な教科にも挑戦しました！)
- ・一人月1回 (年9回) 授業研究会 (そのうち1回は全体授業研究会)
- ・略案形式での指導案作成

めざす授業像の実現に向けて、自らの意識改革に取り組み、授業を公開して協議する中で、新たな気づきが生まれます。教師の思いが授業という形になって、子どもたちの変容につながってほしいと思います。

【児童の変容】

- ・「今日の授業が楽しかった。」と保護者に話す児童が増えた。
- ・児童相互で話を聞き合い、それに対する意見がつながり始めた。

【教師の変容】

- ・日々の授業を研究の視点に立って変えていこうとする意識が高まった。
- ・苦手な教科も学習指導要領を熟読し自分で授業を創造しようとする取組が実践されるようになった。

授業力向上へ

考えることが楽しい

元気の出る

東部教育局主催ワークショップ

日々の実践に役立つような情報を提供したり、課題解決に向けた協議を深めたりしました。



「言語活動の充実を意識した授業改善」11/29
～一番大切なポイントを絞って授業構成を考える～

【言語活動を充実させるための基本的な考え方】
〈国語科において〉

- 4つの基礎的・基本的な国語の力を定着させる。
- 言葉の美しさやリズムを体感させる。
- 記録、要約、説明、論述等の活動を行う能力を培う。

〈各教科等において〉

- 従前の指導を把握・検証した上で各教科等の目標と指導事項との関連及び児童生徒の発達段階や能力を踏まえて言語活動を計画的に位置づけ、授業構成や指導の在り方を工夫・改善していく。

【国語科の例】関心意欲を高める **単元構想の4つのステップ**

① **単元で付けたい力**を明確にする

「大造じいさんとがん」を例に
(第5学年)

② **付けたい力を達成するためにぴったりの言語活動**を選ぶ

①指導事項C(1)オから「本を読んで考えたことを紹介し合い、自分の考えを広げたり深めたりしながら読む」をねらおう。

③言語活動を遂行するために必要な **具体的な能力**を明確にする

②言語活動として「一番魅力の場面を紹介する本の帯を作る」ことを設定しよう。

既に身に付けている力と付けたい力を明確に

③印象に残ったところを見つけながら読むことはできる。(身に付けている力)

④その能力を身に付けるための **指導過程を工夫**する

本文の中から語彙を選んで、推薦できるようにしたい。(付けたい力)

④第2次では、一番魅力的な場面を考えながら読ませよう。第3次では、選んだ本を本の帯をもとに紹介し合わせよう。

国語科では、特に単元構想(児童・生徒の実態をもとにしながら、どんな言語活動を設定するのか)が大切です。「学習指導要領解説国語編P130～」では、言語活動例を一覧できます。次のような学年の発達の段階を大切に、単元を貫く言語活動を位置づけましょう。

低学年:「大好き・お気に入り」など新鮮な思いや願いを重視して

中学年:「はてな・もっと知りたい」という思いや願いを重視して

高学年:「こんな発見があった」「自分はこう考える」という思考や判断、感動を重視して

本時の学習活動(例えば第2次の場面の読み取り)にも、その選んだ言語活動を位置づけましょう。

【算数科の例】 **問題解決学習の授業場面において**

① **問題提示場面**

言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて

思考や表現をしたくなるような提示をする(思考の必然性)

② **自力解決場面**

期待する児童の算数的な活動の様相を考え、活動を促したり活動の質を高める支援をする

③ **練り上げの場面**

児童の活動をつなげ整理しながら、本時のねらいにせまる

「平行四辺形の面積」を例に
(第5学年)



①いろいろな求め方があることを伝えて、意欲を高めたい。

②数学的に価値付けされた面積の求め方ができるように、全体・個別に対する支援を考えておこう。

③様々な面積の求め方を、既習事項(三角形や長方形)を活用して説明させよう。整理して理解を深めさせよう。

算数科の言語活動のねらいとして、学習指導要領に「数学的な思考力、判断力、表現力等を育成すること」が明示されています。

授業では 次の点を大切にしましょう。

○図や式、表やグラフが**思考する道具、表現する道具**となるよう活動を仕組むこと

○積極的に**既習の算数用語**を活用すること

○普段から**根拠を明らかにして説明する習慣**づくりをすること



中学校からの参加者も熱心に協議しました。

○言語活動を充実させる授業づくりとは。

○どのように校内研究会に取り込むか。

○どのように職員に共通理解を図るか。

各学校の実態に応じて校内研究の柱とし、授業づくりに全職員で取り組みましょう。

国が示す指導事例集を参考に、理解を深めましょう。

「言語活動」という言葉に振り回されず、各教科の目標の実現のために単元を見通し、児童生徒の実態を踏まえて1時間の授業を計画し、よりの確な言語活動を組みます。それを的確に評価して次時に生かす実践を心がけることで、授業は必ず改善されます。

元気の出る

東部教育局主催ワークショップ

「魅力ある保護者の持ち方・進め方PART2」12/26
～学年末保護者のプログラムをつくろう～



保護者の課題や解決策を話し合った後、グループ毎にねらいに合ったテーマや内容、保護者の活動になるよう、プログラムシートを使って流れを考えました。

【主な課題】

- どのような内容が保護者を引き付け、参加者の増加につながるか
- 保護者が気軽に発言するには、どんな活動や雰囲気が必要か
- 担任以外の先生と連携できることは何か

【主な解決策】

- アンケートなどを活用して、ニーズや悩みを把握する
- 映像や作文などで具体的に伝える
- 少人数で、付箋などを使った活動を取り入れる
- 児童アンケートなど関心のある共通の話題をもとに話し合う
- 違った視点で情報をもらう

プログラムシート例

シートを活用することで、ねらいや流れ、活動が明確になり、見通しを持って保護者会を行うことに役立ちます。

【タイトル】 進級に向けて今できること
～子どもたちにメッセージを贈ろう～

【ねらい】 1年間の子どもの成長や努力を学校と家庭で共有し、今後の子どもたちへの励みや、保護者も一緒にがんばろうという気持ちにつなげる。

時間	活動の内容	留意点・準備等
導入 (10分)	• なんでもチェーンでグループ分けをする	• 誕生日順に並び4グループに分ける
展開 (25分)	• 子どもたちの成長やがんばってほしいことを付箋に書く • グループで話し合う	• 個人で書いた後にグループで話し合う。その後、発表して成長や課題を共有する
まとめ (15分)	• 子どもたちの成長や課題を担当から話す • カードに子どもたちへのメッセージを書き教室に掲示する	• 写真を使って子どもたちの成長を伝える • 学校と家庭が一緒に取り組めるようなメッセージにしよう



【導入例】

- 《アイスブレイク》
- 私を見つけて！
 - 共通点を探せ



【展開例】

- 子どもたちの成長をKJ法でまとめてランキング
- 生徒が作った「私の成長ベスト10」を利用したスライド視聴と話し合い

児童の成長の伝え方や保護者が主体的に参加できる活動を少し工夫することで、学校と保護者で成長や課題を共有でき、雰囲気も変わってきます。次年度につながるよう、今年度最後の保護者会をもう一度見直してみてもいいのではないでしょうか。